

住まいの防火防災診断

消防職員が高齢者等のお宅を訪問し、火災などの危険性をチェックして、改善のためのアドバイスを行います。



診断時間は約30分で、費用は無料です。ご家族や支援者と一緒に受けることもできます。

→診断を希望する方は、
最寄りの消防署にご連絡ください。

住宅用火災警報器は10年で交換

設置後10年を目安に、本体を交換しましょう。



ふたを外すと、製造年月日を確認できます。

製造年月日 13 10 15

→2013年10月15日製造

本体内部



10年で交換！

持っていますか？マイ消火器

ご自宅に、消火器を備えましょう。

一般的な消火器と比べて、小さいものや手軽なものもあります。



住宅用消火器

コンパクト！

- ・高さ 約40cm
- ・重さ 2～3kg



エアゾール式簡易消火具

手軽！

- ・ヘアスプレー缶
等とほぼ同じ構造

問 合 せ 先

東京消防庁 防災部 防災安全課 電話番号 03-3212-2111 内線4247
令和6年10月発行



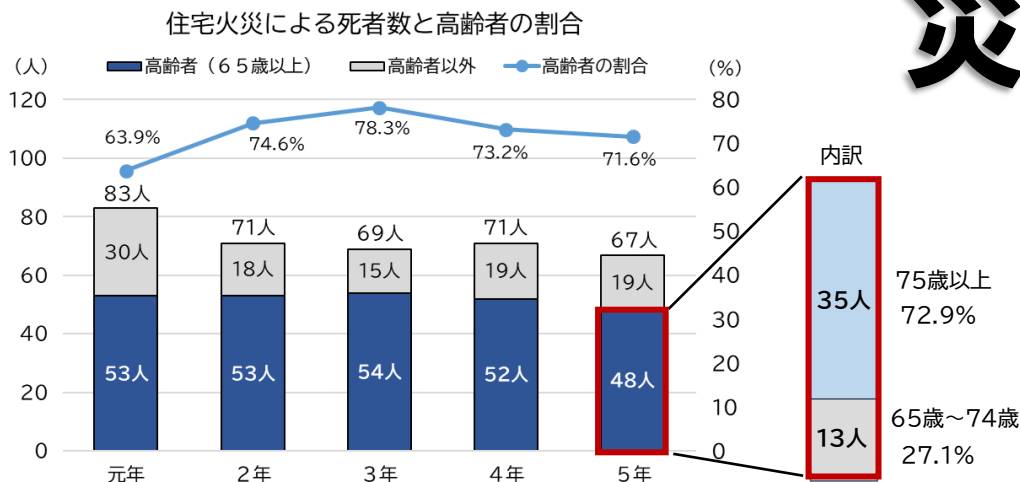
STOP！

STOP！住宅防火シリーズ⑥ 火災から大切な命を守ろう

高齢者の火災危険

高齢者の火災とは、65歳以上の高齢者にかかわる火災のことをいいます。

- 住宅火災による死者67人のうち、65歳以上の高齢者(以下「高齢者」という。)は48人、全体の71.6%を占め、高い割合となっています。
- 住宅火災による高齢者の死者48人のうち、75歳以上の高齢者は35人、高齢者の72.9%を占め、高い割合となっています。



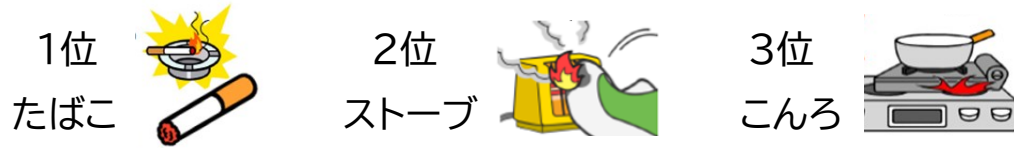
高齢者の火災

東京消防庁

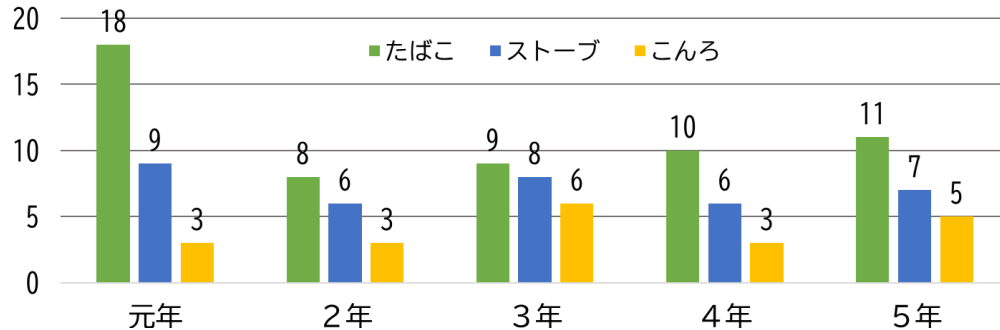
高齢者の死者が発生した火災での出火原因

高齢者の死者が発生した火災での主な出火原因は、

※令和元年～令和5年



高齢者の死者が発生した火災での主な出火原因



要注意！

たばこ

たばこが原因で高齢者の死者が発生した火災では、そのほとんどが「**火源が落下する**」「**不適当なところに捨てる・投げ捨てる**」によるもの。
布団類への着火が最も多い。



- 寝たばこは絶対にしない。
- 吸殻を灰皿やごみ箱にためない。
- 吸殻に水をかけ、完全に消火してから捨てる。
- 火種を落とさないよう安全な場所で喫煙する。
- 禁煙や、加熱式たばこへの切替も考える。



要注意！

ストープ

ストープが原因で高齢者の死者が発生した火災では、その約6割が「**可燃物が接触する**」ことによるもの。

布団類、衣類・繊維類への着火が多い。



- 外出時や就寝時は必ず消す。
- ストープの近くに布団やカーテン、洗濯物など燃えやすいものを置かない。



要注意！

こんろ

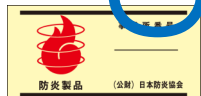
こんろが原因で高齢者の死者が発生した火災では、その約7割が「**可燃物が接触する**」ことによるもの。

着衣への着火が最も多い。



防災品に表示されているラベル例

- 調理中にこんろから離れない。
- こんろ周りに燃えやすいものを置かない。
- 換気扇や魚グリルは定期的に掃除する。
- こんろの上や奥にあるものを取りときは、火を消してから取る。



※日本防災協会HPより